

◆（様式第3号）業務経験事例の記入例

診断治療、研究以外の樹木の保護・管理に関する事例でも可としますので、下記的事例に限らず、あなたが業務を通じて経験した樹木の取扱い事例を記入してください。最大3事例までを取りまとめてください。なお、ワード上で、行を増やしての作成は可とします。ただし提出枚数は、最大でA4サイズ3枚までとします。業務や作業に関わる工事写真帳（台帳）などは添付しないでください。

業務経験事例の記入例

1	事例（研究）名	道路拡張に伴う移植・保護工事		
	年月	H27年5月～28年2月	場所	〇〇県〇〇市
	対象樹種	イヌシデ	形状等	高15m 根元周4.0m 枝張り20m
	症状・診断所見（研究テーマ）	巨樹で樹齢も古い（100年以上と推定）が樹勢は良好であった。道路工事の工程上根回し期間が7ヵ月と短く、ご神木のため樹形の維持を求められた。		
	具体的処置・方法（研究方法）	短期間かつ根鉢下部での発根を促し、移植後の活着を確実にするため、林試移植法をベースに根回しを実施した。埋め戻しにバーク堆肥の充填を行うとともに、通気性・透水性の向上のため、通気穴として根鉢深さまで半割りし節を抜いたモウソウチクを貫入した。剪定は、現況の樹形を極力保つほか、発根の促進を妨げることのないよう透かし剪定とし、7ヵ月後に移植を実施した。		
	処置（研究）後の結果	平成28年2月に移植を行い、5月の時点で樹木全体に新芽がみられた。その後も定期的な灌水を行うとともに、生育状況をこまめに観察し、生育は順調である。		
報告（発表）	実施報告を工事発注者である〇〇土木事務所に提出した。			
2	事例（研究）名	県指定天然記念物「わかれの一本桜」の診断治療		
	年月	H29年4～5月	場所	〇〇県〇〇郡〇〇村
	対象樹種	エドヒガン	形状等	高20m、幹周6m、枝張り15m
	症状・診断所見（研究テーマ）	近年衰退がひどく、大枝が枯れ下がり、枝折れ、幹割れのほか、幹下部に大きな空洞ができていた。要因としては、長年の踏圧と排水不良による根系衰退のほか、幹の損傷による材質腐朽が想定された。		
	具体的処置・方法（研究方法）	排水不良を改善するため、根を傷めないよう注意しながら掘削を行い、暗渠排水を設けた。その際一部切除した根にはチオファネートメチル剤を塗布したうえで、多孔質の土壌改良材と良質なバーク堆肥で埋め戻した。幹の空洞部は腐朽部を除去し、十分に乾燥させた後で、樹皮よりも低い位置にアクリル板を設置し、景観上違和感のないよう表面を塗装した。その他、踏圧防止のため、樹木の周囲に簡易柵を設けると同時に急な倒木を避けるための支柱を設置した。		
	処置（研究）後の結果	処置後1年後の状況であるが、見た目にも樹勢が回復し、開花量は過年度に比べ多くなった。今後は、小型のコンプレッサーを使ったエアレーションを継続して行っていく予定である。		
報告（発表）	本件の診断書は平成〇年〇月〇〇発注者である村役場に提出。			
3	事例（研究）名	サクラ類の胴枯病に関する研究		
	年月	H26～27年	場所	
	対象樹種	サクラ類	形状等	
	症状・診断所見（研究テーマ）	サクラの幹、大枝に附着して樹皮、形成層を破壊して枯死させる <i>Valsa</i> 菌、 <i>Dermea</i> 菌、 <i>Botryosphaeria</i> 菌等の胴枯病菌を症状により分類し、防除対策を研究した。		
	具体的処置・方法（研究方法）	菌を分離培養し、ソメイヨシノの樹幹に接種して発病させ、各種殺菌剤の塗布及び外科技術による防除効果を検討した。		
	処置（研究）後の結果	罹病初期の場合はすべての菌に対し、特に〇〇〇剤が効果を示したが、症状が進むと殺菌剤塗布だけでは効果がなく、罹病部の切除等の外科的措置を併用して行う必要があることが明らかとなった。		
報告（発表）	修士論文として提出。			